

東京国立 博物館 ニュース

第702号
展示と催し物
案内

2-3 ● 特別展 誕生！中国文明

4 ● 特別展予告 東大寺大仏—天平の至宝—

5-10 ● 平常展見どころ案内 2010年8月・9月

重文 小袖 白綾地秋草模様／日本美術の流れ
特集陳列「打ち鳴らして音を出す仏具—梵音具—」ほか

11 ● 親と子のギャラリー 博物館の音楽会

12-13 ● みどりのライオン 教育普及事業 講演会
花見で一句 入選発表 ほか

14 ● INFORMATION 15 ● TOPICS

16 ● 2010年8月・9月の展示・催し物

2010

8 | 9

月号



誕生！ 中国文明

The Birth of
Chinese
Civilization

《早周りノ誌上ガイドツアー》

大好評開催中の「誕生！中国文明」展。
今号では、特別展のワーキングチームの
メンバー、川村、三笠両研究員が、
約一五〇件の作品から、気になる作品を
ピックアップしてご紹介いたします。



第一部「王朝の誕生」では 青銅器と玉器をチェック！

川村 ● 展覧会を見開き二ページで語るなんて！ できるかなあ。

三笠 ● 広報室のたつての頼みですから(笑)。まずは会場の入り口からはじめましょうか。

川村 ● そうですね。では、第一部「王朝の誕生」からご案内しましょう。

皆さんを最初にお迎えするのが、「動物紋飾板」(写真①)です。この青銅の板は、河南省の二里頭遺跡から出土しました。二里頭は中国最古の王朝といわれる夏の都だったのではないかと



① 動物紋飾板

偃師市二里頭Ⅵ区11号墓出土 青銅・トルコ石 長辺16.5cm 夏時代・前17～前16世紀 洛陽博物館蔵 ● 孔のあいたつまみは、衣服に縫いつけるため。この作品はお墓から発掘されたものですが、被葬者の胸のあたりでみつかっています

考えられています。動物を真上からみた文様を表しています。

三笠 ● 美しいトルコ石をはめ込んでいます。高貴な人が、力の象徴として身につけたものでしょう。ところで、中国の青銅器の特色ってなんですか？

川村 ● この作品もそうですが、左右対称の安定した造形でしうか。他の地域では工具や武器が発達したのに対して、祭祀に関係した飲食器が多いのも中国の特色です。とくに、お酒のいれものが多いですね。神や祖先に捧げるものなので台や脚のついたものが多く、その結果、かわった形の器がたくさんあります。

三笠 ● 会場とくに眼をひくのは、この方罍(写真②)ですね。

川村 ● これは三三〇〇年から三三〇〇年ほど前の商時代の青銅器です。内側に王妃の名「婦好」という文字が鑄込まれているたいへん貴重なものです。この婦好は自ら軍隊を率いた



② 方罍

安陽市殷墟婦好墓出土 青銅 高67.6cm 商時代・前13～前12世紀 河南博物院蔵 ● 上部にある2本の柱は、「お酒を濾す布をつけるためのもの」とする説が有力

り、祭をつかさどったりたいへん勇ましい王妃だったらしいです。表面には、眼、口、角のある動物がこれもまた左右対称に描かれているのがわかります。

三笠 ● 私は陶磁器が専門ですが、紋様や器形の面白さでは古代の土器も負けていないと思います。夏時代の甕(写真③)に描かれた赤い紋様、白陶盃(写真④)のかたちなど、その後の青銅器に通じるものがあるので、ぜひ見逃さないでほしいところです。

川村 ● 青銅器と同様、中国古代文明の象徴といえるのが、玉ですね。玉とは何か？一言で言えば、きれいな石です。「説文解字」という字書によれば光沢があつて、あたたかみのあ

④ 白陶盃

伊川県南寨遺跡出土 土製 高28cm 夏時代・前18～前17世紀 河南博物院蔵 ● 酒を用いた儀礼につかわれたものか



③ 甕

鞏義市花地嘴遺跡出土 土製、彩色 高57cm 夏時代・前20～前18世紀頃 鄭州市文物考古研究院蔵 ● 朱色の渦巻の紋様が鮮烈です

る石です。中国では八〇〇〇年くらい前の玉器が出土しており、青銅器よりもずっと前からとても大切にされてきたことがわかります。

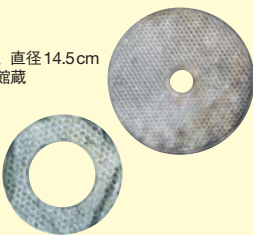
三笠 ● わたしのイチオシは、六角形の突起を刻んだ玉璧(写真⑤)と小さい渦巻を刻んだ玉環(写真⑥)。どちらも紋様の細かさには驚かされますね。

⑤ 玉璧

永城市芒碭山僑山2号墓出土 玉 直径14.5cm 前漢時代・前1世紀 永城市博物館蔵

⑥ 玉環

永城市芒碭山僑山2号墓出土 玉 直径10.9cm 前漢時代・前2～前1世紀 ● ともに梁の王か王妃の墓から出土したもので



⑦ 金縷玉衣

永城市芒碭山僑山1号墓出土 玉・金(銅) 長さ180cm 前漢時代・前1世紀 河南博物院蔵 ● 合計2008枚もの玉の札を金の糸でつづった衣。修復時には銅の糸を使用



川村 ● ひとつひとつ研磨してつくっているのですから、気の遠くなるような話です。じつは、玉はただ美しいだけでなく、超自然の力をもつ石、一種のパワーストーンとして大切にされてきました。たとえば、遺体を玉の衣で覆うことできがらる永遠に保てるとか。今回も

特別展「誕生！中国文明」

7月6日(火)～9月5日(日) 平成館

主催：東京国立博物館、読売新聞社、大広、中国河南省文物局 後援：中国大使館 協賛：清水建設、光村印刷、トヨタ自動車、三城ホールディングス 協力：日本航空、日本貨物航空、TBS ラジオ

観覧料金：一般1,500円(1,200円)、大学生1,200円(900円)、高校生900円(600円)

＊()内は20名以上の団体料金。中学生以下無料。入館の際に年齢の分かるものをご提示ください

＊障害者とその介護者1名は無料(入館の際に障害者手帳などをご提示ください)

お問い合わせ：ハローダイヤル03-5777-8600

展覧会ホームページ：http://tanjochina.jp/

巡回予定：

九州国立博物館 10月5日(火)～11月28日(日)

奈良国立博物館 2011年4月5日(火)～5月29日(日)

王の墓から出土した玉の衣、金縷玉衣(写真7)が出品されています。

第二部「技の誕生」では 古代の暮らしを実感

三笠 ● さて、第二部では古代中国の工芸技術の誕生と発展の様子を見ていきます。

という、ちよつと硬いイメージですが、ここでおすすめるは古代の人々の暮らしの様を伝える作品です。中国では、死後も生前と同じような豊かな暮らしを送るために、暮らしの道具はもちろん、人や飼っている動物の模型を作って墓におさめるという風習があります。それらの副葬品にはいきいきとした表現のものが多く、当時の暮らしをありのままに伝えてくれています。

川村 ● この七層楼閣(写真8)もお墓に納められたもので、高さ約一八〇センチの陶製の建築模型です。七階建ての楼閣が別の建物と空中の廊下でつながっています。



8 七層楼閣

焦作市出土 土製、彩色 高182.2cm 後漢時代・2世紀 焦作市博物館蔵 ● 鮮やかな彩色のあとも。入り口の人物や犬にも注目

三笠 ● これは後漢時代、二世紀の作品ですね。当時、こんな建物があつたということですか？

川村 ● そういった建物のあとが発掘されたわけではないので、わかりませんが、単なる想像でつくったとは思えないですね。



9 果実形盒・器皿

信陽市長台関7号墓出土 青銅 盒の高さ20cm 戦国時代・前4～前3世紀 河南省文物考古研究所蔵 ● 実用性が高くおしゃれな器

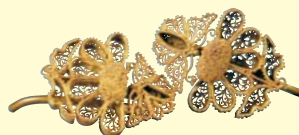
三笠 ● すごい建築技術ですね。

川村 ● 入り口を見てください。人が俵を担いでいて、犬が寝をべつています。なんと、六階の窓辺にはこの家の主人らしき人もいますよ。

三笠 ● では、このビルは住宅？

川村 ● 穀物倉説、住宅説など、専門家の意見も分かれるところです。

三笠 ● 第二部は実際に暮らしのなか



10 金製耳飾り

洛陽市邙山宋墓出土 金 長4.2cm 北宋時代・11～12世紀 洛陽博物館蔵 ● お花と蝶のデザイン。表面には極小の金の粒があしらわれています

で使われた工芸作品も多数展示されています。私がほしいものは果実形盒(写真9)ですね(笑)。

川村 ● 高さ20センチの瓜のような形の容器の中になんと44枚もの器皿と杯が入っているという優れものですね。今回展示するのはそのうちの8枚です。

三笠 ● シンプルで実用的、とってもおしゃれですね。これをもってお花見に行きたいです。金製耳飾(写真10)などアクセサリも素敵です。

第三部「美の誕生」で 永遠の美に出会う

三笠 ● 第三部「美の誕生」では、今まで続く中国の伝統美の世界をご覧ください。注目は、神獣や仙人の類を表した作品です。そこには、中国の人々が思い描いた「理想の美」が



11 神獣

浙江餘杭山陰9号墓出土 青銅・トルコ石、象嵌 高48cm 春秋時代・前6～前5世紀 河南省文物考古研究所蔵 ● 体の表面にトルコ石をはめ込んで龍、鳳凰、虎などの細かい紋様を表しています



12 羽人

洛陽市東郊漢墓出土 青銅、鍍金 高15.5cm 後漢時代・1世紀 洛陽博物館蔵 ● 背中に羽は不老不死の仙人のしるし。腕やひざにも羽毛が表現されています

表されていると考えられます。川村 ● 中でもこの青銅の神獣(写真11)には圧倒されますね。トラの身体に龍の頭、亀の脚、小さな龍が絡みあつた角をもち、さらに背中には龍をくわえた小さな動物がついています。不老不死の仙人を表現したと考えられる人物像(写真12)は背中に羽があります。これで、天と地を自由に往来するんですね。いずれも、自然を超越したパワーの象徴なのです。



13 鎮墓獸

安陽市豫北紗廠張盛墓出土 白磁 高49cm 隋時代・開皇15年・595年 河南博物院蔵

三笠 ● やきものでおすすめるは、白い鎮墓獸(写真13)と白い武人俑(写真14)です。中国の人々が一貫して求め続けた白い肌のやきもの、白磁が誕生した頃の作品です。川村 ● そのほか、動物をかたどった作品に傑作が多いですね。三笠 ● 唐三彩の駱駝(写真15)など、顔の表情も腰や足の動きもまるで生



14 武人俑

安陽市豫北紗廠張盛墓出土 白磁 高72cm 隋時代・開皇15年・595年 ● どちらもお墓の入り口近くに置かれたもの。光沢があつてあたたかい白色は、玉に通じるものがあります

15 三彩駱駝

洛陽市閼林唐墓出土 陶製 高81cm 唐時代・8世紀 洛陽博物館蔵 ● 正面からだけでなく角度を変えてじっくりと



きているようです。唐三彩もお墓に供えるためのものでした。死者に満足してもらえよう、あるいは死を超えた永遠を望む気持ちがこめられているのかもしれない。川村 ● ほかにも見どころはまだありますが、紙面に限りがありますので、このあたりで。三笠 ● そうですね、全貌はぜひ会場でご堪能ください。

スタンプラリーも楽しめるジュニアガイド配布中。ジュニア版音声ガイドもご用意しました。



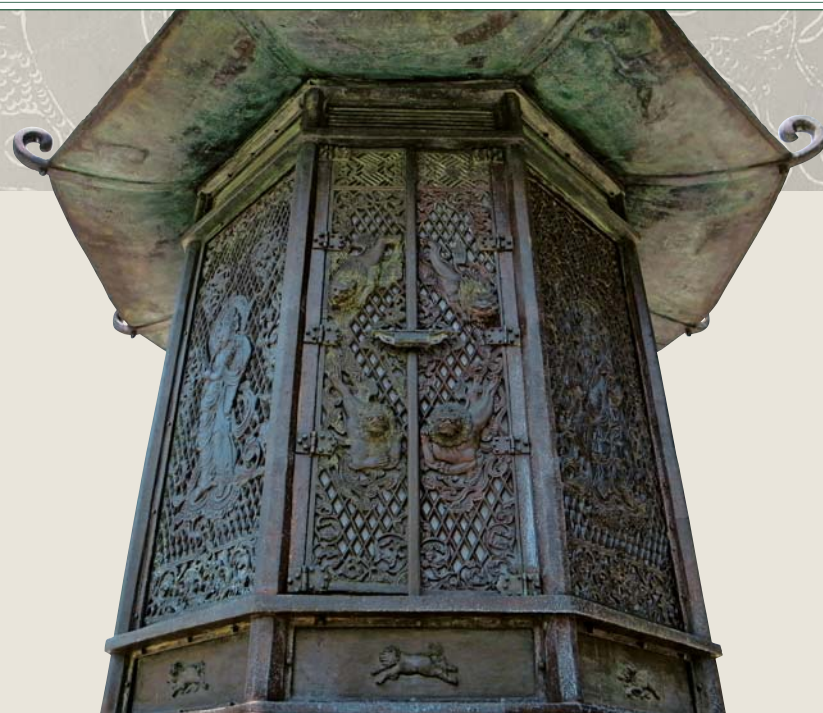
こどもといっしょに
中国文明!

特別展
予告

光明皇后一二五〇年御遠忌記念

東大寺大仏 —天平の至宝—

この秋、上野に東大寺の大仏が建立された頃の
天平の至宝がやってきます。
天平の文化とはどんな文化なの？
展覧会を前に、まずはそんな疑問にお答えします。



●八角燈籠扉 奈良時代・8世紀 東大寺蔵
羽目板には楽器を奏でる菩薩、扉には四頭の獅子が跳躍する姿を表わします。顔は唐獅子ですが、たてがみが顔を一周しており、ライオンのよう

天平とは、奈良時代の七二九年から七四九年まで用いられた元号です。その後も天平勝宝、天平宝字など天平を付した元号が続き、最後は天平神護二年（七六六）です。そのため、奈良時代の文化のことを天平文化と呼ぶことが定着しています。東大寺大仏の造立が始まったのが天平十七年（七四五）、開眼供養が行われたのが天平勝宝四年（七五二）、これに前後して作られたさまざまな物が伝来していますから、東大寺は天平文化の宝庫と言っても過言ではありません。正倉院はもとより東大寺の倉であり、正倉院宝物は聖武天皇



●鎮壇具のうち 狩獵文小壺（部分）
奈良時代・8世紀 東大寺蔵
高さが4.4cmと小さい銀製の器の表面に刻まれた狩人。遣唐使が持ち帰った中国製品を手本にして日本で作られました

乗って弓をひく狩人は、ペルシアの器物に好んで用いられた模様です。今回そうした作品の細部をじっくり観察してください。天平のころの華やかな雰囲気を実感できるでしょう。
(浅見龍介)

天平とは、奈良時代の七二九年から七四九年まで用いられた元号です。その後も天平勝宝、天平宝字など天平を付した元号が続き、最後は天平神護二年（七六六）です。そのため、奈良時代の文化のことを天平文化と呼ぶことが定着しています。東大寺大仏の造立が始まったのが天平十七年（七四五）、開眼供養が行われたのが天平勝宝四年（七五二）、これに前後して作られたさまざまな物が伝来していますから、東大寺は天平文化の宝庫と言っても過言ではありません。正倉院はもとより東大寺の倉であり、正倉院宝物は聖武天皇

の遺愛品を光明皇后が東大寺に寄進したものです。天平文化の特色は、異国情緒に富むことです。仏像の丸みのある肉付き、なまめかしいほどの容姿はインド風が流行していた、唐の作風に影響を受けたものです。銀製の小壺に表わされた馬に乗って弓をひく狩人は、ペルシアの器物に好んで用いられた模様です。今回そうした作品の細部をじっくり観察してください。天平のころの華やかな雰囲気を実感できるでしょう。
(浅見龍介)



●二月堂本尊光背（部分） 奈良時代・8世紀 東大寺蔵
絶対の秘仏で見るできない二月堂本尊の光背。銅板に仏菩薩像等を線刻しています。ふっくらした肉付きとなめらかな刻線がみどころ



光明皇后1250年御遠忌記念
特別展「東大寺大仏—天平の至宝—」

10月8日(金)～12月12日(日) 平成館

主催：東京国立博物館、華嚴宗大本山東大寺、読売新聞社

平常展見どころ案内 2010年8月・9月

これだけは
見逃せない!
おすすめの
この1点

風にそよぐ秋草のモチーフ

重要文化財 小袖 白綾地秋草模様

尾形光琳筆

8月31日(火)〜10月24日(日) 本館10室 浮世絵と衣装



◎小袖 白綾地秋草模様 尾形光琳筆 江戸時代・18世紀
影絵のようにかたどられた桔梗の花。
簡略化された桔梗のフォルムは、やがて光琳模様の永遠の
モチーフとなって描き継がれます

小袖模様がにわかに華やいた江戸時代、裕福な商家の女性たちの間では、有名な絵師に模様を直接描かせた、描絵の小袖がブームとなりました。尾形光琳も、当時の流行りに乗じて小袖に秋草図を描くことになったのでしよう。江戸・深川の材木商であった冬木家の奥方のために描いたと伝えられ、江戸時代末期の鑑定書も付属しています。

尾形光琳は、万治元年(一六五八)、京都の高級呉服商であった雁金屋の次男に生まれました。優れたデザイン感覚は生家で養われましたが、彼が進んだ道はキモノの図案ではなく絵画でした。元禄期後半には画家として京都で名をはせ、宝永元年(一七〇四)、江戸へと向かいます。慣れない江戸の地にあつて、最初に寄宿したのが冬木家でした。光琳といえば金箔地に描かれた「燕子花図屏風」のような華やかで装飾的な画風が知られます。しかし、江戸に赴く前後から、この小袖に描かれるような潇洒な秋草図を好んで描くようになりました。小袖に描かれる秋草図にも、当時における光琳の画技が反映されています。

呉服商に生まれながらキモノのデザインをほとんど手がけることのなかった光琳ですが、この小袖にはさまざまな配慮が見られます。たとえば、桔梗の花には、絵具ではなく染料の藍が用いられ、透明感のある優しい花びらの触感をとらえています。帯を結ぶ部分にあたる腰にはあえて何も描かず空間をあけています。その一方で、衣桁に掛けて一幅の絵としても飾っておけるように、お尻の部分あるいは、裾にかけて、空間を配しながら菊、萩、薄といった秋草を描き、風にそよぐ秋の草叢を表わしました。墨と淡彩で描かれる秋草は軽やかで無駄がありません。江戸デビューを志した光琳が、その広告塔として、この頃、もつとも得意とした秋草図を意気揚々と描いたようにも思われます。

はおつてみたくもあり、飾ってもおきたい光琳の描絵小袖。皆さんはどのようにご覧になるでしょうか。

(小山弓弦葉)

7 屏風と襖絵 —安土桃山・江戸

画面の作品から生み出される
空間の広がりを感じとってください。

6月29日→8月8日

水墨による山水風景をとりあげます。多様な
水墨技法と山水表現の広がりをご覧ください。

◎山水図屏風 雲谷等顔筆 必見!

安土桃山～江戸時代・16～17世紀

岩山や泊り舟などに雪舟画のモチーフが見出されます

8月10日→9月20日

狩野派、四条派、琳派—屏風絵の多様な展開をご覧ください。



必見! 周茂叔林和靖図屏風 狩野探幽筆 江戸時代・17世紀
俗世を逃れ、花鳥を愛でる暮らし。江戸時代の武士が憧れた境地

5 6 武士の装い —平安～江戸

6月15日→8月29日



必見!

◎黒韋肩裾取
威腹巻 室町
時代・15世紀
室町時代の武
将が着用した
典型的な腹巻
の形式を示し
ています

8-1 暮らしの調度 —安土桃山・江戸

安土桃山から江戸時代にかけて
人々の身の回りを飾った調度や
器を展示します。

8月3日→10月24日

季節に合わせ、秋にちなんだ意匠の品々
をご覧ください。



必見!

楓時絵文庫 原半遊斎作

江戸時代・19世紀

楓の図柄は箱の外側のみならず内側や
底裏にまで及んでいます



必見!

風志野秋草図額皿 美濃 安土

桃山～江戸時代・16～17世紀

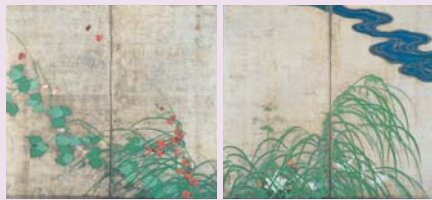
秋草はさまざまな工芸品に見ら
れる、日本の文様の代表格

8-2 書画の展開 —安土桃山・江戸

さまざまな表現で広がる豊かな
視覚文化の時代を体感してください。

8月10日→9月20日

絵画では、文人の理想のさまざまなかたちを、書跡では、
文人による唐様(中国風)の書の展開をご覧ください。



6月29日→8月8日

必見!

◎夏秋草図屏風 酒井抱一筆 江戸時代・19世紀
突然にわか雨で、地面に水たまりができた一風景をみごとに
とらえています

必見!

一行書 石川丈山筆 江戸時代・17世紀

唐様発展の先駆けとなる丈山の漢文化の造詣と格調
の高さを示す書



必見!

◎山中結廬図

浦上玉堂筆 江戸時代・寛政4年(1792)

後に脱落する武士・玉堂の心情をうつす作品—理想
の境地



9 能と歌舞伎

室町時代～江戸時代に
用いられた能の面と
装束を紹介します。

7月6日→8月29日

髪物(女能)の一つ「江口」
の舞台をイメージした面・
装束を展示します。

特集陳列

「絹糸と金箔の和様美 —縫箔—」

8月31日→10月24日

表着から腰巻へ…大きく役割転換
した縫箔の歴史をご覧ください。

必見!

◎縫箔 茶地百合御所車模様

安土桃山時代・16世紀

おらかな桃山文化期の刺繍と精緻な摺
箔模様のハーモニー



10 浮世絵と衣装 —江戸

【衣裳】小袖や髪飾り、印籠や根付など
江戸時代のファッションに関する展示です。

7月6日→8月29日

帷子や単衣、ガラス製の櫛・簪・簪など涼しげな
真夏のおしゃれを紹介。

8月31日→10月24日

日本人が特に好んだ、菊や萩といった
秋草模様をデザインした小袖を展示。

【浮世絵】江戸時代の美人や風景を
描いた版画と肉筆の浮世絵を展示します。

7月27日→8月22日

花火や川端の夜景など夏にちなんだ作品に、団扇絵、
藍摺絵を加えて展示。

8月24日→9月20日

初期役者絵と秋にちなんだ作品に葛飾北斎の
「琉球八景」などを加えて展示。



必見!

帷子 黒紅麻地扇面雪

輪手宮秋草模様

江戸時代・17世紀

夏だからこそ!? 涼感を

誘う雪輪のデザイン

(7/6～8/29)

必見!

小袖 紫山崎縮緬地縦縞模様

菊伊達紋付 江戸時代・19世紀

縞模様を織り出した小袖に菊の

伊達紋が「いき」な一領

(8/31～10/24)



必見!

名所江戸百景・两国花火

歌川広重筆

江戸時代・安政5年(1858)

江戸の夏の風物詩隅田川の納

涼を花火と同じ高さから俯瞰

して描いています

(7/27～8/22)



必見!

琉球八景 泉崎夜月 葛飾北斎筆 江戸時代・19世紀

北斎が、見たことのない琉球の名所を描いた夢幻的作品

(8/24～9/20)



本館9室 能と歌舞伎

シルクの光沢、黄金の輝き

特集陳列

「絹糸と金箔の和様美

「縫箔」

8月31日(火)～10月24日(日)

刺繍と金銀の箔で模様を表わしたキモノ形の能装束「縫箔」。腰巻や着付(上衣の下に着る装束)に用いられる縫箔は脇役といったイメージがありますが、唐織が普及していない安土桃山～江戸時代初期には、もっとも華やかで美しい衣装として若い女性役の表着に用いられていました。江戸時代には、能の演目を思わせるような風景や景物、団扇や扇面散らしなどが、キモノの全身にまるで一枚の絵の

ようにデザインされました。物語性や叙情性に加わった風景模様や秋草模様からは、伝統的な中国の吉祥模様とは異なる和様美がうかがえます。和刺繍ならではの特色として、撚りのかかっている絹糸をゆつたりと渡し、絹の光沢を限りなく生かした技も見どころの一つです。シルクの光沢と金銀の輝きが奏でる縫箔の美をご堪能ください。

(小山弓弦葉)



◎縫箔 紅白段菊声水鳥模様
安土桃山時代・16世紀
びっしりと刺繍で模様を表わし、隙間を金箔で埋め尽くしたゴージャスなデザイン

本館14室 工芸

音を奏でる仏具の数々

特集陳列

「打ち鳴らして音を出す仏具

「梵音具」

8月10日(火)～10月3日(日)

仏教では、その宗教的雰囲気が高めるために、音を出す仏具(梵音具)が用いられます。よく知られているものに、寺院の鐘楼に吊りさげて打ち鳴らす梵鐘がありますが、そのほかにも仏堂の内外に吊るして鳴らす鰐口や雲版、儀式のさいに鳴らす磬、鉦鼓、木魚などがあります。梵音具はその名前同様、それぞれに独特の形状をし

ており、中には鐘や磬のように、はるか古代中国の青銅器に形式の起源をもつ例もあります。また同じ鐘でも、日本と朝鮮半島では明らかな形式の違いを見てとることができます。こうしたさまざまな梵音具の、独特の造形美、仏具としての機能美をお楽しみください。

(伊藤信二)



●金銅蓮華唐草文磬 平安時代・12世紀 京都・禅林寺蔵
端正な形と優美な文様

本館15室 民俗資料

琉球のきらびやかな手わざ

特集陳列

「琉球の工芸」

7月6日(火)～10月3日(日)

厨子甕とは、亡くなった人のある程度の期間墓地に安置した後、洗った清めた骨を納めるための骨壺のことです。材質にはサンゴ石灰岩、木、石、陶器などがありますが、本例は壺屋焼のものです。二層の屋根のついたかわゆる御殿形と呼ばれ、全体に濃い褐釉がかかっています。蓋は瓦葺屋根を表現しており、棟先には立派な鯱、各層の隅棟先端には獅子の頭部がつ

けられています。身の正面中央には釉薬のかかっていない窓が設けられていて、そこに埋葬者や埋葬年などの墨書が記されてきた可能性もあります。両脇に蓮座に乗る僧形の人物、両側面に大きな蓮の花が表現された豪華なものです。壺屋焼は17世紀後半、琉球王国がそれまで沖縄本島各地で操業していた窯を現在的那覇市壺屋町に統合して誕生しました。

(日高慎)



厨子甕 沖縄本島 壺屋焼 第二尚氏時代・18～19世紀 堤里志氏寄贈
琉球王国以来の伝統の骨壺

江戸は情報社会！

シリーズ「歴史を伝える」
特集陳列

「江戸時代の情報通信」

8月3日(火)～9月5日(日)

江戸時代に社会が安定すると交通が活発となり、文書や書籍、画像などによる情報の流通が盛んになります。さらに大量の情報を組織化した目録や索引、評価を加えた番付などの新しい形式の媒体が発生しました。江戸のような都市が発達すると、八百八町と言われた多くの町の所在を知るための「江戸町々いろは分独案内」や商店ガイドにあたる「買物独案内」が作成されました。

内」が刊行されて、社会的な情報の整理が図られました。また、全国の古い金石文を番付仕立てにした「古物金石相撲」は学術的な知識が広く普及し、享受されていたことを示しています。この展示では、情報を伝えるさまざまな資料の生の形を示すとともに、街道の管理や飛脚、旅宿のような情報流通を支えた社会的基盤についても紹介します。

(田良島哲)

湯島聖堂の資料を中心に

シリーズ「歴史を伝える」
特集陳列

「釈奠——孔子さまのお祭り——」

9月7日(火)～10月17日(日)

釈奠は孔子やその弟子たちを祭る行事です。古代中国で行われ、日本では文武天皇の時代に大学寮ではじまりました。「延喜式」巻第二十(国宝)には、孔子たちの画像を掲げて食物や酒を供え、大学頭が祝文を読み参拝したことが記されています。釈奠は、

中世を経て、近世には湯島聖堂、藩校などで行われました。東京国立博物館は、明治五年(一八七二)の湯島聖堂博覧会をその創立・開館とするため、湯島聖堂で行われていた釈奠の資料がたくさん伝わっています。今回はその中から、湯島聖堂に関係する「歴聖大儒像」などの肖像画や釈奠の様子を描いた絵図を展示します。また、「延喜式」や、釈奠が行われた際に三条西実隆(二四五～一五三七)が書いた「詩懷紙」など、釈奠に関わる作品をご紹介します。

(恵美千鶴子)



●延喜式 巻第二十(巻頭) 平安時代・11世紀
平安時代に行われていた大学寮での釈奠について記されています



◎諸街折絵図(部分) 江戸時代・19世紀
全国の街道がひと目でわかる便利な折絵図

東洋館

リニューアルオープンへの道



展示ケースの試作品が完成しました

東洋館の耐震補強工事のかたわら、新たな展示ケースの製作も進んでいます。研究員たちの要望を集約した展示ケースは、これまでよりガラスの部分を増やしています。東洋館の展示室は、以前とは違った軽快な印象になることでしょう。

展示ケースのうち、代表的なものの試作品が完成したので、博物館から四名が、確認のため、展示ケースの製作されているドイツを訪問しました。外観や大きさ、扉の開閉しやすさや安定性、施錠の方法、作品の保存環境を守るための調湿剤の収納方法など、時間をかけて調べ、改善してほしい点も指摘しました。このうち、試作品のケースは日本に運ばれ、耐震性や気密性などの検査も行われる予定です。

(白井克也)



東洋館で使用する展示ケースと全く同じ大きさ、構造の試作品





本館13室 漆工

極楽に咲く大蓮華をイメージ

国宝 片輪車蒔絵

螺鈿手箱

6月15日(火)～9月12日(日)

いかにも平安時代らしい文様で知られる、日本の漆芸を代表する名品。流水と車輪の文様は、牛車の車輪の干割れを防ぐために水に漬けた情景を写したもので、片輪車文様とよばれます。しかし単に実景を意匠化したわけではなく、この文様には極楽浄土の池に咲く大蓮華のイメージが重ねられているといえます。さらに箱の形や寸法を考え合わせ、当初は経巻を納める箱として制作されたとみられています。

(竹内奈美子)



●片輪車蒔絵螺鈿手箱 平安時代・12世紀
ここでは車輪の向きや配置が変化に富んでいますが、時代が下るとパターン化してゆきます

本館2室 国宝室

餓鬼の苦しみを描く

国宝 餓鬼草紙

8月24日(火)～10月3日(日)



●餓鬼草紙 平安～鎌倉時代・12～13世紀
餓鬼の出没する墓所
ここに見える塔婆類に近似したものが出土した

岡山の豪商・河本家に伝来したもので、『正法念処經』餓鬼品に説かれる餓鬼を描いたものと考えられています。本来苦しみの中にあるはずの餓鬼たちのどこか活き活きとした姿に、苦しみさえもわからなくなってしまうことの恐怖・哀れみが暗示されているようで、絵師の卓越した描写力を感じずにはいられません。

なお、二〇〇七年、石川県珠洲市の野々江本江寺遺跡から、本絵巻の制作時期に近く、絵巻中の塔婆類の形態に近似した、木製の出土例としては最古となる塔婆と板碑が出土しました。今回は関連の講演会も予定されていますので、そちらも是非お楽しみ下さい(12ページ参照)。

(沖松健次郎)

本館13室 刀剣

厚みのある独特の形状

国宝 短刀 銘吉光

(名物 厚藤四郎)

6月29日(火)～9月26日(日)

鎌倉時代の山城国では粟田口派と呼ばれる流派が興り、藤四郎吉光は同派の最後を飾る刀工として知られています。これは厚みが極端にある短刀で、「厚藤四郎」の名はこの特異な形状に因みます。鍛えと呼ばれる地鉄の肌模様は細かな板目のようで、沸とよばれる粒子がついて力強さを与えます。刃文は直線的なものです。が、刃のなかには足(刃文から刃方に出る線状のもの)や金筋(刃中に出る沸がつくる筋)が随所に入り、細かな変化には品格があります。短刀の制作を得意とした吉光の面目躍如たる作品です。

(酒井元樹)

●短刀 銘吉光(名物 厚藤四郎)

粟田口吉光作
鎌倉時代・13世紀
特異な形状ですが、力強さと品格を備えているのは粟田口吉光ならではです



表慶館第7室 エジプト考古

愛の女神ハトホルの化身

聖魚オクシリンコス像

8月3日(火)～

聖魚オクシリンコス像
金銅製 エジプト出土
末期王朝時代
前664～前332年頃



オクシリンコスとはナイルカワカマスのギリシア語名で、神話に登場する聖魚。エジプト全土、特に上エジプトにある同名の町で信仰を集めました。頭上に母なる愛の女神ハトホルの象徴である日輪と牛角の冠を戴き、本来は同神の化身でした。

神話によると、ミイラ姿の冥界の王となる前のオシリス神は、弟セト神によつて殺され、バラバラにされた遺体は、ナイル川流域にばら撒かれました。この魚はオシリスの男根を飲み込んだといわれます。

この作品は、下部のホヅで竿の先に取り付けられていたようです。(後藤健)

法隆寺宝物館 第3室

豊かな量感、大胆な筆致

二面の迦楼羅

伎楽面

7月21日(水)～8月22日(日)

法隆寺に伝来した三十一面の伎楽面の中には、迦楼羅が二面あります。写真の面は、飛鳥時代後期につくられたもので、他の一つは奈良時代につくられました。両者を比較すると、この面には武骨で力強さが感じられます。それは眉や髪際の線、眉間の皺などを表さず、顔の肉の起伏を大まかにとらえているためです。それと対照的な表現である奈良時代の面は、線的な要素が強く、どこか説明的な感じがします。この面には、優れた表現力を発揮する奈良時代作品にはない、未成熟さがつつ力強さがあります。

(丸山士郎)

●伎楽面 迦楼羅
飛鳥時代・7世紀
形を大まかにとらえた力強さが魅力です



親と子のギャラリー

博物館の音楽会

8月3日(火)～9月5日(日)
本館2階 特別2室

博物館の展示室は、普段、しーんとした静かな場所ですが、この展示室に入ると、にぎやかに音楽が聞こえてくるような、音楽を奏でている作品や楽器がたくさんあります。今年の夏の「親と子のギャラリー」第2弾では、そんな、音楽にまつわる作品を集めてみました。

展示室の中で、古代の埴輪は、琴や太鼓を演奏しています。馬には鈴がついて、しゃらしゃら音を立てているようです。宮廷の音楽に使われた笛や太鼓、儀式の中で使われた楽器は、どんな音がしたのでしょうか。仏画の中での合奏や、おひなさまの人形たちの合奏まで、数々の音楽会をお楽しみください。

期間中には、実際に楽器を弾いたりさわったりすることのできるハンズオンアクティビティと、夏休みファミリー音楽会を催します。

それぞれの楽器、どんなふうに鳴らすのかな？

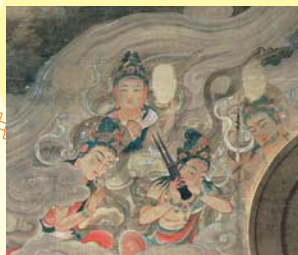
叩く



埴輪 太鼓を叩く男子(左)
群馬県伊勢崎市境上武士出土 古墳時代・6世紀
埴輪 片手を挙げる女子(中)
群馬県伊勢崎市下舩出土 古墳時代・6世紀
埴輪 鼓を打つ人物(右)
群馬県伊勢崎市境上武士出土 古墳時代・6世紀

たいこやかスタネットを演奏しているみたい。にぎやかだね

吹く



模写 阿弥陀聖衆来迎図(部分)
本田天城・下村観山・溝口禎次郎模
明治29年(1896) 原本：平安時代・12世紀

絵の中には、いろんな笛があるよ

合奏してみよう



音楽を奏でながら仏が空から舞い降りてくるよ

模写 阿弥陀聖衆来迎図(部分)
本田天城・下村観山・溝口禎次郎模
明治29年(1896) 原本：平安時代・12世紀

はじく



ハープみたい。弦をはじいて音をだすんだ

模造 螺鈿槽箏 明治時代・19世紀 原品：奈良時代・8世紀

はにわも琴をひいている



埴輪 琴をひく男子
伝茨城県榎川市出土
古墳時代・6世紀 個人蔵

ふる

これも鈴。どんなときに使うのかな？



金剛塔鈴
鎌倉時代・嘉元4年(1306)

鏡のまわりに鈴がついて

五鈴鏡
群馬県昭和村森下出土
古墳時代・5～6世紀

関連企画

① 夏休みファミリー音楽会 「貴族に伝わった音楽 雅楽を聞いてみよう」

宮廷や貴族に伝わった音楽、雅楽の演奏会です。笙、箏、笛、羯鼓、太鼓、鉦鼓といった、古くから伝わっている楽器はどのように演奏するのか、どんな音がするのか、それぞれの説明もします。ご家族、ご友人と一緒に、夏休みのひと時をお楽しみください。

*未就学児童のご参加の場合、周りにご配慮くださいますよう、お願いします。

日時：8月14日(土)13:30～14:30

会場：平成館大講堂

出演：宮内庁式部職楽部 演出：越殿楽、陪臚

定員：380名(事前申込、応募者多数の場合は抽選)

対象：小・中・高校生を含むご家族、ご友人のグループを優先いたします。大人のみ参加も可能です。

料金：無料(ただし、当日の入館料が必要)

締切：7月30日(金)必着

往復はがきの「往信用裏面」に ①代表者の氏名(ふりがな) ②希望参加者数 ③高校生までのお子さまの数 ④郵便番号 ⑤住所 ⑥電話番号、「返信用表面」に郵便番号・住所・氏名を明記の上、下記までお申込ください。(1枚の往復はがきで最大8名の申込可)
申込先：〒110-8712 東京都台東区上野公園13-9 東京国立博物館教育普及室 雅楽音楽会係



提供：宮内庁式部職楽部

② ハンズオン・アクティビティ 「楽器に挑戦！」

実際に楽器にさわったり、鳴らしてみたりすることができます。(一部、さわだけのものもあります。)展示とあわせてお楽しみください。

日時：8日(日)・15日(日)・21日(土)・22日(日)
各日11:00～16:00

会場：本館入口車寄せ付近

料金：無料

(ただし、当日の入館料が必要)

事前申込不要



どんな音がするかな？

PART
1 知る楽しみ、学ぶ喜び
講座・講演会・解説

講演会

「梵音具—仏教の鳴器」(8ページ参照)

仏教では宗教的雰囲気高めるさまざまな鳴器(梵音具)が使われました。その独特の造形についてお話しします。

日時: 8月21日(土) 13:30~15:00

講師: 伊藤信二(教育普及室長)

「野々江本江寺遺跡出土木製塔婆と
国宝餓鬼草紙に描かれた世界」(10ページ参照)

野々江本江寺遺跡出土木製塔婆類の事実関係を整理し、餓鬼草紙に描かれた塔婆類と同じものであることを検証します。

日時: 9月11日(土) 13:30~15:00

講師: 伊藤雅文氏(財団法人石川県埋蔵文化財センター)

*いずれも会場は平成館大講堂、定員: 380名(先着順)、聴講無料(ただし、当日の入館料は必要)

講座

高校生のための連続講座「日本美術の四季」(全3回)

東京国立博物館では高校生のための連続講座を毎年行っています。今回のテーマは「日本美術の四季」。講義や見学、皿の絵付けなどのワークショップ、発表を通して、日本美術の中の四季の表現について、考えてみましょう。全3回、計10時間のプログラムです。

日時: 第1回 9月4日(土) 10:00~15:00 / 第2回 9月25日(土) 10:00~15:00 / 第3回 10月2日(土) 10:00~12:00

会場: 平成館小講堂

対象: 高等学校、および高等専門学校に在学中の生徒 *ただし、3回連続して通える方に限ります

募集人数: 10名(先着順)

受講料: 無料 ただし、当日の交通費・昼食は参加者の負担となります。

持参するもの: 筆記用具、1回目と2回目は昼食を持参してください。

申込方法: 往復はがき・FAX・電子メールのいずれかで

①プログラム名「高校生講座」、②氏名(ふりがな)、③学校名・学年、④郵便番号・住所、⑤電話番号(FAX番号)を明記の上、下記までお申込ください。

申込先: 〒110-8712 東京都台東区上野公園13-9 東京国立博物館教育普及室「高校生講座」係

FAX: 03-3822-3010

電子メール: edu@tnm.jp (件名に「高校生講座」とご記入ください)

締切: 2010年8月23日(月) 必着(定員に達した時点で締め切ります)

*本講座は、都立飛鳥高校・都立大泉桜高校の単位制授業の一環として、合同で行います。

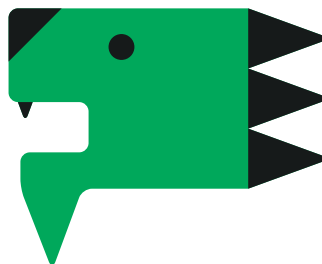


展示作品をみた後に、
絵付けをします



それぞれ個性的な皿のできあがり

教育普及
事業!!



みどりのライオン

みんなで楽しむ教育スペース

EDUCATION CENTER 教学中心 교육센터

列品解説

東京国立博物館の研究員による展示解説です。

「古楽器について」(11ページ参照)

日時: 8月3日(火) 14:00~14:30 本館特別2室

講師: 伊藤信二(教育普及室長)

楽器や楽器が表された埴輪、絵、工芸品などの作品を見ながら、古楽器についてお話しします。

「高麗時代の金鼓」

日時: 8月10日(火) 14:00~14:30 本館14室

講師: 白井克也(平常展調整室長)

金鼓に記された銘文について解説します。

「親子のギャラリー 博物館で音楽会」(11ページ参照)

日時: 8月20日(金) 18:30~19:00 本館20室

講師: 鈴木みどり(教育普及室主任研究員)

博物館の作品の中で、音に関わる作品をお子様にもわかりやすく紹介します。楽器を実際に触ったり鳴らしてみたりしませんか?

「中国青銅器鑑賞入門」

日時: 8月27日(金) 18:30~19:00 本館20室

講師: 川村佳男(東洋室研究員)

古代中国で作られた青銅器の魅力について、やさしくご紹介します。

「江戸時代の情報流通」(9ページ参照)

日時: 8月31日(火) 14:00~14:30 本館16室

講師: 田良島哲(書跡・歴史室長)

江戸時代は社会が安定し、情報の流通が盛んになりました。現代につながる情報の整理・編集や格付けを原資料でご紹介します。

「餓鬼草紙について」(10ページ参照)

日時: 9月7日(火) 14:00~14:30 本館20室

講師: 沖松健次郎(特別展室研究員)

餓鬼草紙の魅力を時代背景とともにお話しします。

「古墳時代の甲冑」

日時: 9月28日(火) 14:00~14:30 平成考古展示室

講師: 古谷毅(列品情報整備室長)

古墳時代中期に成立した日本列島独自の帯金式甲冑の系譜と展開を前期・後期の甲冑と比較しながらお話しします。

*申込みに際していただいた個人情報につきましては、該当事業にのみ使用し、終了後は速やかに破棄します。



あなたの鑑賞をサポート ボランティアによる事業

東京芸術大学学生ボランティアによる ギャラリートーク

東京国立博物館では、来館者に提供する学習機会の増大と、当館と東京芸術大学との連携を図るため、平成15年度から「東京芸術大学学生によるギャラリートーク」を開始しました。この事業は、将来、美術館・博物館で学芸員として働くことに関心のある学生に対する、博物館での実地研修の意味合いもつもの。東京芸術大学大学院美術研究科修士課程芸術学専攻 日本・東洋美術史および工芸史を学ぶ学生の、展示品についてのパリエティーに富んだギャラリートークが皆さまの鑑賞のお役に立てば幸いです。

「康円作『四天王眷属立像』 —俗なる姿に宿る表現の妙—」

日時：8月5日(木)、7日(土)、11日(水)、13日(金)、15日(日)、18日(水)
本館11室(本館1階エントランス集合) 解説：山田美季

「今村紫紅筆『熱国巻』—点描の風景画—」

日時：8月12日(木)、19日(木)、26日(木)、9月1日(水)、8日(水)、9日(木)
本館18室(本館1階エントランス集合) 解説：張鈞惠

「仏教における梵音具 —祈りの音—」

日時：8月25日(水)、31日(火)、9月10日(金)、16日(木)、26日(日)、10月2日(土)
本館14室(本館1階エントランス集合) 解説：田澤梓

「法隆寺献納宝物 金銅透彫灌頂幡 —天人の舞う荘厳具—」

日時：9月3日(金)、12日(日)、18日(土)、24日(金)、10月6日(水)、13日(水)
法隆寺宝物館第1室(法隆寺宝物館エントランス集合) 解説：内山美代子

「浅井忠のフランス風景

—芸術家たちを魅了した『夕暮れの村』—」

日時：9月19日(日)、22日(水)、29日(水)、10月7日(木)、20日(水)、23日(土)
本館18室(本館1階エントランス集合) 解説：山崎菜未

「良全筆『如意輪観音図』—水墨で描かれた観音の世界—」

日時：10月9日(土)、14日(木)、19日(火)、24日(日)、28日(木)、30日(土)
本館3室(本館1階エントランス集合) 解説：祝迫眞澄

*いずれも時間は15:30~15:50

こどもたちのアートスタジオ

「勾玉作り」

平成館考古展示室内にある勾玉を見学した後に、滑石を加工して勾玉を制作するワークショップです。

日時：8月22日(日) 13:30~15:30 会場：平成館小講堂

対象：小学校3年生から高校生 定員：10名程度

*保護者の方の見学も可能です(ただし当日の入館料が必要)

申込方法：官製往復はがきの「往信用裏面」に、希望コース名と日程、郵便番号・住所・参加される方のお名前(ふりがな)・学年・電話番号・保護者がご一緒の場合はその人数を、「返信用表面」に、返信先の郵便番号・住所・氏名を明記の上、下記までお申込ください。

申込先：〒110-8712 東京都台東区上野公園13-9 東京国立博物館ボランティア室 締切：8月9日(月)必着 *締切の後、参加券をお送りします。なお、応募多数の場合は抽選とさせていただきます。

花見で一句 入選発表

「博物館でお花見を」(3月25日~4月11日)関連企画「花見で一句」にて桜をテーマにした俳句を募集しました。期間中、館内投句箱、はがき、メールなどあわせて1146句の応募をいただきました。ここに一席1名、二席2名、三席3名、秀作11名を発表いたします。たくさんのご応募ありがとうございました。この他、佳作38名については当館ホームページで公開中。入選された皆様には記念品をお送りします。

選考 正木ゆう子氏(俳人)

総評 雪月花と一口に言うように、雪・月・花は古来詩歌の最も重要なテーマでした。私の尊敬する俳人三橋敏雄さんは、これに鶯と時鳥を加えた5つの季語を詠んだ代表句を、俳人たるもの持つべきであると、常々おっしゃっていたものです。中でも花すなわち桜は最も重要な題材。今回は多くの方がこのテーマに挑戦してくださいました。

入選句を見るとおわかりのように、一句の良さは実に様々です。同じ物差しでは比べられないくらいです。その中で一席には、派手ではないけれど、深くしみじみとした句を選ばせていただきました。さりげない句、凝った句、面白い句、不思議な句。俳句って多様で面白い!と思った方は、どうぞこれからますます俳句に深入りしてくださいね。

一席 我がための桜吹雪に杖を止む 長岡貝郎氏

評 杖をついているのは、ご高齢のせいだろうか。一人の散歩に、一陣の桜吹雪。それを「我がための」と断定したところに、深い充足感がある。充足感はまた歩んできた人生そのものに対する充足感のようにも感じられる。

二席 花を見ていま花のこと考えず 西田克憲氏

評 見ていないときは桜のことが気がかりでしかたがないのに、桜のもとへ来ると、頭がからっぽになってしまう。もう何も考えず、ただただ満喫。これぞ至福のとき。

二席 一面は唇囁む阿修羅夕桜 藤原若菜氏

評 昨年の阿修羅展を思えば、博物館への挨拶も兼ねた巧みな句。阿修羅像を見ての感慨が、相応しい季語を得て完成した。季語はこのように、時をかけて授かることがある。

三席 見上ぐれば桜と雲の昼ごはん 内田恵子氏

評 長閑さが、力を抜いた一句の調子にも表れている。雲もきつと、満開の桜のような、ぽっかりと丸い形。

三席 無理をして桜の頃に來いと云う 井上頼男氏

評 名物の桜なのだろう。話し言葉がそのまま一句になった。「無理をして」が、具体的にリアルだ。

三席 さくら咲くことばに水に耳もとに 風間晶氏

評 ことば・水・耳もと、という3つの言葉に何の脈絡もないところが面白い。わかりにくい、不思議な感覚。

秀作	花月夜車座大いなる椿円	西田克憲氏
	夜桜の蕾のなかのあしたかな	藤原若菜氏
	気ごろのだんだん知れて花筵	鈴木順子氏
	ポンポンと船出てゆけり初桜	鈴木桂吾氏
	ゆらゆらと嬰のおすわり花筵	石井京子氏
	音あらばハープ奏でて散る桜	柄澤寿々子氏
	弘子逝き展宏もなく桜かな	吉田武峰氏
	存へて白寿の花見しようとは	井上頼男氏
	花冷えや昼の葉はポケットに	岩崎崇典氏
	初花の風には散らぬ力満つ	藤田莊二氏
	みな花の方に揃ってお弁当	丹羽ひろ子氏

イベント開催のお知らせ

◆テノールと尺八のコンサート

ロシアオペレッタ界で人気を誇るテノールと響きわたる尺八の音色

日時:9月26日(日) 開場14:30 開演15:00 会場:平成館ラウンジ
出演:ワレーリー・イスリヤキン(テノール)、渡辺淳(尺八)、岩崎能子(ピアノ)
曲目:民謡・宮田耕八朗編曲:追分幻想

長沢勝俊作曲:詩曲
レハール:「微笑みの国」からスー・チョンのアリア
「君こそ我が心のすべて」
カールマン:「マリツァ伯爵夫人」からタシロのアリア
レハール:「メリー・ウィドウ」からダニロのアリア
ロシア民謡:「黒い瞳」、スペイン民謡:アマポーラ
イタリア民謡:君を忘れられない ほか



料金:一般 4,500円 友の会・キャンパスメンバーズ割引 3,500円 全席自由
※当日は、コンサートチケットで、平常展をご観覧いただけます。
主催:東京国立博物館、サロン・ド・ソネット 協力:ロシア文化フェスティバル委員会

チケットのお求め方法

●当館正門観覧券売場でのチケット販売

受付時間:開館日の9:30~閉館の30分前まで(月曜休館)

●電話予約販売

申込先:東京国立博物館 総務課イベント担当 TEL 03-3821-9270
受付時間:月曜日~金曜日 9:30~17:00(土日祝日は除く)
コンサート当日、9:30~当館正門観覧券売場にて現金引換えにてお渡します。

◆ミュージアムコンサート「二胡の響きに魅せられて」

当館研究員による楽器のお話と、すがすがしい二胡の調べ

日時:9月23日(木・祝) 開場13:30 開演14:00 会場:平成館大講堂
出演:賈鵬芳(ジャ・パンファン、二胡)、西本梨江(ピアノ)、
伊藤信二(当館教育普及室長)

内容:第1部 当館研究員によるお話「仏教美術に見る楽器」
第2部 二胡とピアノの演奏

曲目:服部克久:風の子守唄 R.ロジャース:マイ・フェア・ベリット・シングス ほか
料金:2,500円 全席自由 ※当日は、公演のチケットで、平常展をご観覧いただけます。
主催:台東区芸術文化財団 共催:東京国立博物館
お問い合わせ:台東区芸術文化財団 TEL 03-5828-7591
※チケットは、東京文化会館チケットサービス(03-5685-0650)、旧東京音楽学校
奏楽堂、台東区芸術文化財団、台東区役所で販売。

※各イベントの詳細は、当館ホームページでご確認ください。
※お車でのご来館はご遠慮ください。

◆〜クラリネットの響きが彩る午後のひととき〜
東京国立博物館 ファミリーコンサート

東京クラリネット・クワイアーが、
クラリネットだけの珍しい編成でお届けする名曲の数々

日時:8月8日(日) ①13:00~ ②15:00~
出演:平成館大講堂
出演:演奏 東京クラリネット・クワイアー、指揮 稲垣征夫
曲目:チャイコフスキー:アンダンテ・カンタービレ
モーツァルト:アイネ クライネ ナハトムジーク ほか
料金:無料(ただし当日の入館料は必要) ※事前予約不要 先着380名
主催:東京国立博物館、東京クラリネット・クワイアー
協賛:上野のれん会

◆10月3日(日)は留学生の日です

日本の学校に所属する留学生、ALT(外国語指導助手)および、その同行者は
平常展が無料となります。留学生のためのガイダンスやお茶会などさまざまな
イベントも実施されます。お問い合わせのうえ、ぜひご来館ください。

◆レストラン ラコール 仮店舗営業のお知らせ

レストランラコールは東洋館の耐震補強工事にともない、2010年7月から、
東洋館前の仮店舗で営業しています。東洋館リニューアルオープンを予定して
いる2012年春までお客様にはご不便をおかけしますが、どうかよろしくお願い
いたします。

◆本館一部閉室のお知らせ

本館1階11~16室は11月30日(火)~12月26日(日)に、17~19室は
12月14日(火)~12月26日(日)に展示環境改善のため閉室します。

◆「東大寺大仏―天平の至宝―」招待券プレゼント

本誌4ページで紹介した「東大寺大仏―天平の至宝―」展(10月8日(金)~
12月12日(日))の招待券を、抽選で10組20名様にプレゼントします。締切は
9月18日(土)必着。

※プレゼントの応募方法

はがきに住所、氏名(ふりがな)、性別、年齢、職業、ならびにこの号で一番
面白かった企画をご記入のうえ、下記までお送りください。発表は発送をもって
替えさせていただきます。

〒110-8712 台東区上野公園13-9 東京国立博物館 広報室
「ニュース8・9月号」プレゼント係

◆東京国立博物館賛助会員
募集のご案内

東京国立博物館では賛助会員制度
を設け、当館の活動を幅広くご支援
いただいております。賛助会員よりい
ただいた会費は、文化財の購入・修理、
調査研究・平常展・施設整備等の充実
にあてております。どうか賛助会の趣
旨にご理解ご賛同いただき、ご入会
くださいますようお願い申し上げます。

入会日より1年(入会月の翌年同月
末日まで)有効。賛助会員には、特別会
員と維持会員との2種類があります。

年会費

特別会員 100万円以上
維持会員 法人 20万円
個人 5万円

主な特典

- 特別展の内覧会にご招待
- 東京国立博物館ニュースの送付

*賛助会員のお申し込みは随時受け付
けています。
*お問い合わせ
東京国立博物館総務部 賛助会担当
TEL 03-3822-1111(代)

東京国立博物館賛助会員 2010年6月18日現在

特別会員

日本電設工業株式会社 様 株式会社ミロク情報サービス 様
株式会社コア 様 読売新聞社 様
株式会社精養軒 様 三菱商事株式会社 様
大日本印刷株式会社 様 凸版印刷株式会社 様
株式会社毎日新聞社 様 ブルガリ ジャパン株式会社 様
株式会社大林組東京本社 様 東芝国際交流財団 様
朝日新聞社 様 日本写真印刷株式会社 様
株式会社オリエントエクスプレス 様 日本ロレックス株式会社 様

維持会員

木村 則子 様 観世 あすか 様
早乙女 節子 様 星望 由尚 様
宇津野 和俊 様 久保 順子 様
伊藤 信彦 様 渡辺 章 様
井上 萬里子 様 稲垣 哲行 様
篠内 匡人 様 帖佐 誠 様
服部 禮次郎 様 飯岡 雄一 様
岩沢 重美 様 峯村 協成 様
高田 朝子 様 牧 美也子 様
齋藤 京子 様 高瀬 正樹 様
齋藤 邦裕 様 坂井 俊彦 様
和田 喜美子 様 寺浦 信之 様
佐々木 芳絵 様 高木 美華子 様
藤原 紀男 様 古屋 光夫 様
中川 俊光 様 根田 穂美子 様
関谷 徳衛 様 松本 澄子 様
高橋 守 様 鷲塚 泰光 様
小澤 桂一 様 是常 博 様
上久保 のり子 様 上野 孝一 様
柳田 良豊 様 北山 喜立 様
長谷川 英樹 様 山田 泰子 様
池田 孝一 様 木村 久雄 様
木村 剛 様 高橋 徹 様

維持会員 団体

東京電力株式会社 様 株式会社 スタイルカフェ・ドット・ネット 様 インフォコム株式会社 様
TBS 様 株式会社 古美術数本 様 学校法人 大勝院学園 様
株式会社三冷社 様 日本ハーデス株式会社 様 有限会社 システム設計 様
株式会社東京美術 様 謙慎書道会 様 公和図書 株式会社 様
株式会社鶴屋吉信 様 社団法人 全国学校栄養士協議会 様 株式会社 小西美術工芸社 様
株式会社 安井建築設計事務所 様 近代書道研究所 様 有限会社 ギャラリー・竹柳堂 様
株式会社 ナガホリ 様 日本畜産興業株式会社 様 株式会社 育伸社 様
松本建設株式会社 様 株式会社 東京書芸館 様

高見 康雄 様 高久 真佐子 様
田中 望 様 小川 春夫 様
三井 速雄 様 平山 利恵 様
坂詰 貴司 様 陶山 哲夫 様
吉田 靖 様 井出 雪絵 様
松本 雅彦 様 佐藤 新一 様
明珍 素也 様 岡本 博司 様
伊藤 喜雄 様 岡本 恭子 様
井上 雄吉 様 谷川 紀彦 様
大森 雅子 様 山口 隆司 様
鈴木 宗鶴 様 原 一之 様
折越 卓哉 様 会田 健一 様
渡辺 泰昌 様 桐畑 政義 様
細川 要子 様 相良 多恵子 様
錦織 伸一 様 熊谷 勝昌 様
鈴木 幸一 様 眞中 富士男 様
武藤 剛志 様 鈴木 徹 様
秋元 文子 様 今里 美幸 様
土師 昭三 様 櫻井 恵 様
上塚 建次 様 加藤孝明 様
鏡 賢志 様 伊佐 健二 様
山田 輝明 様 福井 一夫 様
村木 久晃 様 (ほか42名2社、順不同)

◆海外展「千年丹青—日本・中国
珍藏唐宋元絵画精品展—」9月29日(水)～11月23日(火)
中国・上海博物館

唐時代から宋・元時代にかけて、中国の絵画は各種の典型的な様式が創出され、宮廷絵画と文人絵画が隆盛し、明・清時代の絵画の趨勢を導きます。唐宋以来、日本に請求された中国絵画は、日本絵画の発展にも大きな影響を与えました。

日本に流伝するこれらの中国絵画の中には、中国美術史上、重要な地位を占める名品が少なくありません。この展覧会は、日本に現存する中国絵画の名品を里帰りさせ、日中両国の文化交流を促進しようとするもので、上海で開催中の万国博覧会、さらには同じく上海で11月に開催される国際博物館会議(ICOM)の総会に合わせて開催されるものです。「鑑真と空海—日中文化交流の顕彰—」も併催しています。訪中

の予定がある方は、ぜひ上海博物館にも足を伸ばしてみませんか。(富田淳)

◆東京国立博物館
モバイルサイト オープン

携帯電話などから、

東京国立博物館の利用案内や特別展の開催概要などを確認していただけになりました。お手持ちの携帯電話(バーコード読取対応機種)で右のQRコードを讀取ってアクセスしてご覧ください。



直接アドレスを入力される場合は
<http://www.tnm.jp/mobile/>となります。

◆TNM&TOPPANミュージアム
シアター上演作品のお知らせ

VR作品「唐招提寺—金堂の技と鑑真和上に捧ぐ御影堂の美—」

7月2日(金)～9月26日(日)金・土・日・祝日 10時、11時、12時、14時、15時、16時上演 各回30名



VR作品「唐招提寺—金堂の技と鑑真和上に捧ぐ御影堂の美—」より

平城遷都一三〇〇年に当たる本年、ミュージアムシアターでは奈良に関する作品を上演しています。第二弾は、唐招提寺。十年に渡る大修理で明らかになった金堂の巧みな建築構造や創建当

時の色彩を再現。東山魁夷画伯が鑑真和上に捧げた御影堂の障壁画とともにナビゲーターが解説をします。

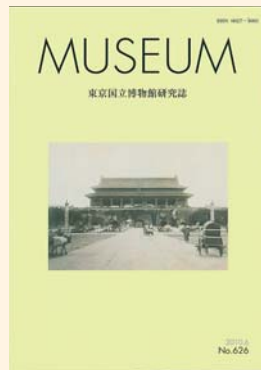
*当日予約制 本館エントランスにて受付

◆MUSEUM 626号

(2010年6月15日発行)の掲載論文

①「小川一眞の北京城撮影と帝室技芸員任命について」関紀子(当館絵画・彫刻室研究員)

②「資料紹介」東京国立博物館蔵「旧儀式図画帖」猪熊兼樹(当館貸与特別観覧室主任研究員)



◆国立博物館の展示案内

〈京都国立博物館〉

特別展 没後200年記念「上田秋成」7月17日(土)～8月29日(日)

〈奈良国立博物館〉

特別展「仏像修理100年」7月21日(水)～9月26日(日)

〈九州国立博物館〉

九州国立博物館開館5周年記念特別展「馬 アジアを駆けつけた二千年」7月13日(火)～9月5日(日)

東京国立博物館友の会&パスポート

友の会 年会費 1万円 発行日から1年間有効

特典 東京・京都・奈良・九州国立博物館4館の平常展は何度でもご覧いただけます。特別展に関しては、観覧券を12枚配布。そのほか、本誌の定期郵送などさまざまな特典があります

パスポート 一般 4,000円 学生 2,500円

発行日から1年間有効

特典 東京・京都・奈良・九州国立博物館4館の平常展は何度でも、お好きな6つの特別展を1回ずつ計6回までご覧いただけます

*建物の改修等のため、京都国立博物館・奈良国立博物館の平常展示館、東京国立博物館東洋館など一部展示館を閉鎖しています。

◆お申し込みは当館窓口、郵便振替または当館ホームページで
(郵便振替でのお申し込み)

*振替用紙には郵便番号・住所・氏名(ふりがな)・電話番号・職業・年齢・性別・メールアドレスを楷書でご記入ください
*振替用紙の半券が領収書になります。会員証、パスポートが届くまで保管しておいてください
*振替手数料はお客様の負担となります
*ご入金確認日より会員証、パスポートがお手元に届くまで2週間程かかります

友の会

加入者名(振替先)東京国立博物館友の会
口座番号00160-6-406616

パスポート

加入者名(振替先)東京国立博物館パスポート
口座番号00140-1-668060

*振替用紙には申込区分(一般か学生)、学生の場合は、生徒手帳か学生証のコピーを郵送またはFAXでお送りください

◆お問合せ

TEL 03-3822-1111(代) 友の会・パスポート担当
FAX 03-3821-9680

東京国立博物館ニュース定期郵送のご案内

本誌の定期購読をご希望の方は、年間(6冊分)1,000円の送料・事務費のご負担でご自宅にお届けします

◆お申し込みは郵便振替で

加入者名(振替先)東京国立博物館ニュース
口座番号 00100-2-388101

*振替用紙には郵便番号・住所・氏名(ふりがな)・電話番号を楷書でご記入ください
*振替用紙の半券が送料の領収書になります。1年間保管しておいてください
*振替手数料はお客様のご負担となります
*次号より送付ご希望の場合、締切は2010年9月10日まで

東京国立博物館メールマガジンのご案内

特別展・各種催し・展示替・ウェブ更新などの情報をいち早くお届けします *ご登録は<http://www.tnm.jp/>から

東京国立博物館利用案内

開館時間 9:30～17:00

2010年12月までの特別展開催期間中の金曜日は20:00まで、2010年4月～9月の土日祝休日、および10月～12月の特別展開催期間中の土日祝休日は18:00まで開館(入館は閉館の30分前まで)。

休館日

原則として月曜日(祝日・休日にあたる場合は開館、翌火曜日休館)、年末年始(12月27日(月)～2011年1月1日(土))、2010年5月4日(火・祝)、8月16日(月)、11月8日(月)、11月15日(月)は開館

平常展観覧料金

一般600(500)円、大学生400(300)円

* ()内は20名以上の団体料金
* 障害者とその介護者1名は無料です。入館の際に障害者手帳などをご提示ください
* 満70歳以上、高校生以下および18歳未満の方の平常展観覧は無料です。入館の際に年齢のわかるもの(生徒手帳、健康保険証、運転免許証など)をご提示ください

*お申し込みに際してご提供いただいた個人情報は、当該の目的にのみ使用させていただきます。当館は個人情報に関する法令を遵守し、適正な管理・利用と保障に万全を尽くします

[16ページのカレンダー内 *1～*11]

- *1 特別展「誕生! 中国文明」関連事業、事前申込制、詳細は前号3ページ、または当館ホームページをご覧ください
- *2 「親と子のギャラリー」関連事業、詳細は11ページをご覧ください
- *3 無料イベントです。詳細は本誌14ページをご覧ください
- *4 「親と子のギャラリー」関連事業、事前申込制、詳細は11ページをご覧ください
- *5 特集陳列「打ち鳴らして音を出す仏具—梵音具—」関連事業、事前申込制、詳細は12ページをご覧ください

- *6 8/21、9/18は手話通訳付きです
- *7 特集陳列「能「江口の面・装束」」関連事業、事前申込制、詳細は前号12ページ、または当館ホームページをご覧ください
- *8 事前申込制、詳細は12ページをご覧ください
- *9 詳細は12ページをご覧ください
- *10 有料イベントです。詳細は本誌14ページをご覧ください
- *11 有料イベントです。詳細は本誌14ページをご覧ください

2010年
8月

東京国立博物館2010年8月・9月の展示・催し物

2010年
9月

1 SUN	時間延長(18:00まで) 14:30 1 「台東区の伝統工芸職人展」
2 MON	休館日
3 TUE	15:00 列品解説「古楽器について」 14:00 本館特別2室 親子のギャラリー「博物館の音楽会」
4 WED	14:00
5 THU	14:00 1「四天王眷属立像」 15:30 本館11室
6 FRI	夜間開館(20:00まで) 15:00 1
7 SAT	時間延長(18:00まで) 11:00 14:00 14:30 15:00 1 記念講演会「美の競演—中国河南省の文物」 13:30 平成館大講堂*1 1「四天王眷属立像」 15:30 本館11室
8 SUN	時間延長(18:00まで) 13:00 14:00 1 ハンズオン・アクティビティ「楽器に挑戦!」 11:00 本館入口*2 ♪ファミリーコンサート 13:00, 15:00 平成館大講堂*3
9 MON	休館日
10 TUE	列品解説「高麗時代の金鼓」 14:00 本館14室
11 WED	1「四天王眷属立像」 15:30 本館11室
12 THU	14:00 14:00 14:30 1「今村紫紅筆『熱国之巻』」 15:30 本館18室
13 FRI	夜間開館(20:00まで) 14:30 1 1「四天王眷属立像」 15:30 本館11室
14 SAT	時間延長(18:00まで) 14:00 1 ♪夏休みファミリー音楽会「貴族に伝わった音楽 雅楽を聞いてみよう」 13:30 平成館大講堂*4
15 SUN	時間延長(18:00まで) 12:30, 14:00 14:00 1 ハンズオン・アクティビティ「楽器に挑戦!」 11:00 本館入口*2 1「四天王眷属立像」 15:30 本館11室
16 MON	
17 TUE	15:00
18 WED	1「四天王眷属立像」 15:30 本館11室
19 THU	14:00 14:30 1「今村紫紅筆『熱国之巻』」 15:30 本館18室
20 FRI	夜間開館(20:00まで) 15:00 1 列品解説「博物館で音楽会」 18:30 本館20室
21 SAT	時間延長(18:00まで) 11:00*6 14:00 14:30 15:00 1 ハンズオン・アクティビティ「楽器に挑戦!」 11:00 本館入口*2 月例講演会「梵音具—仏教の鳴器」 13:30 平成館大講堂*5
22 SUN	時間延長(18:00まで) 11:00 13:00 13:30 14:00 14:00 1 ハンズオン・アクティビティ「楽器に挑戦!」 11:00 本館入口*2
23 MON	休館日
24 TUE	
25 WED	1「仏教における梵音具」 15:30 本館14室
26 THU	14:00 14:30 1「今村紫紅筆『熱国之巻』」 15:30 本館18室
27 FRI	夜間開館(20:00まで) 14:30 1 教育イベント「タすずみ能」 17:30 平成館大講堂*7 列品解説「中国青銅器鑑賞入門」 18:30 本館20室
28 SAT	時間延長(18:00まで) 14:00 1
29 SUN	時間延長(18:00まで) 1
30 MON	休館日
31 TUE	15:00 1「仏教における梵音具」 15:30 本館14室 列品解説「江戸時代の情報流通」 14:00 本館16室

1=ボランティアによる本館ハイライトツアー、集合場所：本館1階エントランス
2=ボランティアによる浮世絵展示ガイド、集合場所：本館1階エントランス
3=ボランティアによる陶磁エリアガイド、集合場所：本館1階エントランス
4=ボランティアによる彫刻ガイド、集合場所：本館1階エントランス
5=ボランティアによる樹木ツアー、集合場所：本館1階エントランス
6=ボランティアによる考古展示室ガイド、集合場所：平成館考古展示室入口
7=ボランティアによる法隆寺宝物館ガイド、集合場所：法隆寺宝物館1階エントランス
8=ボランティアによる茶会、集合場所：本館1階エントランス(一般及び大学生は参加費500円、先着30名、開始30分前に集合場所で整理券配布)
9=ボランティアによる庭園茶室ツアー、集合場所：本館1階エントランス(先着20名、開始30分前に集合場所で整理券配布)

1 WED	1「今村紫紅筆『熱国之巻』」 15:30 本館18室
2 THU	14:00
3 FRI	夜間開館(20:00まで) 15:00 1 1「金銅透彫灌頂幡」 15:30 法隆寺宝物館第1室
4 SAT	時間延長(18:00まで) 11:00 13:30 14:00 14:30 15:00 1 「高校生のための連続講座」 10:00*8
5 SUN	時間延長(18:00まで) 14:00 14:30 1 「誕生! 中国文明」 親子のギャラリー「博物館の音楽会」
6 MON	休館日
7 TUE	15:00 列品解説「餓鬼草紙について」 14:00 本館20室
8 WED	14:00 14:30 1「今村紫紅筆『熱国之巻』」 15:30 本館18室
9 THU	14:00 14:00 14:30 1「今村紫紅筆『熱国之巻』」 15:30 本館18室
10 FRI	14:30 1「仏教における梵音具」 15:30 本館14室 1
11 SAT	時間延長(18:00まで) 14:00 14:30 1 月例講演会「野々江本江寺遺跡出土木製塔婆と国宝餓鬼草紙に描かれた世界」 13:30 平成館大講堂*9
12 SUN	時間延長(18:00まで) 13:00 14:00 1 1「金銅透彫灌頂幡」 15:30 法隆寺宝物館第1室
13 MON	休館日
14 TUE	
15 WED	
16 THU	14:00 14:30 1「仏教における梵音具」 15:30 本館14室
17 FRI	15:00 1
18 SAT	時間延長(18:00まで) 11:00*6 13:30 14:00 15:00 1 1「金銅透彫灌頂幡」 15:30 法隆寺宝物館第1室
19 SUN	時間延長(18:00まで) 12:30, 14:00 14:00 1 1「浅井忠のフランス風景」 15:30 本館18室
20 MON	時間延長(18:00まで) 平常展無料観覧日 1
21 TUE	休館日
22 WED	14:30 1「浅井忠のフランス風景」 15:30 本館18室
23 THU	時間延長(18:00まで) 14:00 14:30 1 ♪ミュージアムコンサート「二胡の響きに魅せられて」 14:00 平成館大講堂*10
24 FRI	14:30 1「金銅透彫灌頂幡」 15:30 法隆寺宝物館第1室 1
25 SAT	時間延長(18:00まで) 14:00 1 「高校生のための連続講座」 10:00*8
26 SUN	時間延長(18:00まで) 11:00 13:00 14:00 1「仏教における梵音具」 15:30 本館14室 1 ♪テノールと尺八のコンサート 15:00 平成館ラウンジ*11
27 MON	休館日
28 TUE	列品解説「古墳時代の甲冑」 14:00 平成館考古展示室
29 WED	1「浅井忠のフランス風景」 15:30 本館18室
30 THU	14:00

1=ボランティアによる英語ガイド(本館ハイライト)、集合場所：本館1階エントランス
2=ボランティアによるたての散歩ガイド、集合場所：本館1階エントランス
3=ボランティアによるこどもたちのアートスタジオ(勾玉作りコース、事前予約制(抽選10名)、詳細は本誌13ページをご覧ください)
4=芸大ボランティアによるギャラリートーク、詳細は本誌13ページをご覧ください
5=黒田記念館開館日、木曜・土曜13:00～16:00(夏期(7/15～9/3)は休館)
6=ミュージアムシアター「唐招提寺—金堂の技と鑑真和上に捧ぐ御影堂の美—」(7/2～9/26)上映 10:00 11:00 12:00 14:00 15:00 16:00 各回30名、集合場所：本館1階エントランス(詳細は当館ホームページでご確認ください)

*1～*11は、本誌15ページをご参照ください。
*上記の予定は予告なく変更になることがあります。
*当日の予定はインフォメーションカウンターでご確認ください。
*屋外で実施するツアー・ガイドは雨天の場合中止することがあります。